

事業結果の概要

1) 初期集中支援チーム・チーム員に対する継続支援のあり方の検討

平成 30 年度以降、全国に設置されたチームが効果的に運用・活用されるための継続的な支援、具体的にはチームおよびチーム員に対する継続研修・フォローアップ研修のあり方等について、事業内に設置した委員会を中心に検討し、ともに必要という結論を得た。継続研修に関しては、2) に示したテキスト改訂を、新規に行うフォローアップ研修に 3) に示した事例検討素材を作成した。

2) チーム員研修テキストの改訂

チーム員研修スタート時に作成し、これまで実施要綱の改正等に伴い微修正を行ってきたチーム員研修テキストについて、新規内容の追加、項目の入替・統合などを含めてテキストの改訂を行った。新しい項目として、認知症と認知症以外の精神疾患との鑑別の項、若年性認知症に関する知識の項を加えた。

3) チーム活動の事例収集（フォローアップ研修における事例検討素材の作成）

現に活動しているチームのご協力を得て、チーム活動の事例（対応が難しかった事例、対応がうまくいった事例）を収集し、設置直後またこれから設置されるチームの活動に資する情報として整理した。また、収集した事例の一部を用いて、フォローアップ研修等で行う事例検討に活用できるように整えたグループワーク用の素材も作成した。

4) チーム活動実績のデータ収集および整理

チーム活動実績データを収集するとともに、平成 30 年度以降も各チーム・市町村において、全国統一のチーム活動指標によって、チーム活動実態を把握・評価ができるツールとして、全市町村に対してチーム活動実績をデータ入力するソフトウェアを配布・提供した。715 チーム、1,951 人のデータを収集した。結果は例年と大きな差異はなく、認知症者の受診率、診断率の向上、介護サービス利用率の改善、介護負担尺度、行動・心理症状評価尺度の改善等、初期集中支援チームの有用性が示された。